

「人生のやる気デザイン」研究部会（第12回）

日時：2021年4月12日（月）13:00～15:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・泉水里香（野間教育研究所事務局）

内容：（1）榎本研究員：『病を語る』ということ：なぜ『病を語る』ことが着目されるのか？

- ◆近代医療：患者の視点ではなく治療者の視点
- ◆病人役割論 (Persons, 1951) → 慢性疾患非想定、専門家依存、病者/医師の二分化等批判
- ◆医療技術の発展による慢性疾患の増加
- ◆病人の「役割」から病の「経験」へ：個人が病をどう解釈するかが問題
- ◆主観的な「病の経験」を捉える方法：「病の意味」「病の語り」→治療者ではなく病者の語りから病の意味を解釈→クラインマン (Kleinman, 1988)、フランク (Frank, 1995)
- ◆患者の語る物語は主観的なバイアスがかかった不確かな情報なのか？
- ◆社会構成主義：現実世界の成り立ちを、意味、語り、言語の側面から探求
- ◆「病の語り」再考：批判対象医師の苦悩、論争中の病、理想像不適合患者への抑圧
- ◆まとめ：「病を語る」→病者を巡る心理的、社会的、文化的事柄の意味の明白化の試み
→医療・病の科学的・画一的分析の課題（強い個別性）

（2）渡辺研究員：「論文 “Be happy to be successful: a mediational model of PERMA variables, 2021” の紹介」

- ◆従業員の職務遂行能力に対する認識がどう形成されるかを概念化するため Seligman (2011, The Journal of Positive Psychology 13, 333) の PERMA のプロセスモデルを検証。PERMA とは Positive Emotions, Engagement, Relationships, Meaning, Accomplishment の5つの次元
- ◆方法：日本、中国、豪州、ハンガリー計648名を対象に PERMA 尺度、SVS 尺度で調査
- ◆結論：Positive Emotions から Accomplishment へのパスでは Positive Relationships と Meaning が媒介することが明らかになった。Meaning は Positive Relationships よりも強い媒介効果を示した。Positive Emotions と Accomplishment の間の介入としての Engagement の間接効果は有意ではなかったが、これは Engagement を媒介とした過去の経験的証拠とは一致しなかった

（3）倉住研究員：『オリジナル人生ゲーム』の作成が大学生の未来展望に及ぼす影響」

- ◆内容：作成された人生ゲームの具体的な内容が未来展望に及ぼす影響について分析。また類似する他研究について紹介
- ◆方法：
 - ・調査協力者：駒沢女子大学「家族関係／結婚の心理学」の受講生190名
 - ・実施時期：事前は2020年12月、事後は2021年1月

- ・介入内容：授業「家族関係／結婚の心理学」2コマを利用して、大学卒業後から任意の時期までの「オリジナル人生ゲーム」を個人で作成

- ・使用尺度：

 - 未来展望の拡張性→未来展望尺度（池内朋子・長田久雄，2013）を使用。5件法

 - 未来展望の情緒的側面→子ども用未来展望尺度（陳・茂呂，2016）のうち下位尺度

 - 「自信」と「心配」から3項目ずつ抜粋使用。5件法

- ◆結果と考察：

 - ・人生イベントの数と未来年齢想起の得点伸長の間に $r = .34^{**}$ の正の相関がみられた
→イベントを沢山盛り込んだ人ほど「未来」を想起する年齢が高くなる

 - 各人生イベントのマス（「出産」「育児疲れ」「更年期・空の巣」「夫婦喧嘩」など）

 - 有無による未来展望の伸びの差に有意な伸びを認める→ネガティブな人生イベント

 - は未来を想起する際に簡単には想起しにくいものであると考えられるため、より未来展望が広がったものと考えられる

- ◆オリジナル人生ゲームの作成による介入研究のレビュー：

 - ・立山大星・高丸倫・田中愛・廣田千明・橋浦康一郎・伊東嗣功・寺田裕樹・渡邊貫治・渡部昌平・久保田愛実・坂上冬華（2019）情報工学科版人生ゲームの作製 秋田県立大学学生自主研究成果（平成30年度），2019-06

 - ・山川宏・市瀬龍太郎・太田正幸・加藤義清・庄司裕子・松尾豊（2006）Happy Academic Life 2006：研究者の人生ゲーム—ゲーム型キャリアデザイン学習教材の開発—人工知能 学会誌，21，360-370.

- ・次回研究会 5月17日（月）13：00～